

「新しい出会い」

6月の中旬、アンジュールに新しい入居者、静子さんが来られました。

新しい出会いにワクワクすると同時にわたしたちを受け入れていただけるだろうかという不安がありました。

視力は、片目は見えずもう片目は光を感じる程度。聴力も、補聴器を使われ聴こえたり聴こえなかったり。コミュニケーションの方法をどうするか…。

「いかに障害が重くとも尊厳ある生活を保証する」わたしたちの理念を、関わる態度や行動で静子さんに毎日伝えることを職員で確認し合い、あるがままの静子さんと真っ直ぐに向き合うこと、毎日と一緒に過ごせることへの感謝を伝えることを大切にして過ごしました。

他事業所からアンジュールへ来られ場所が変わったことへの不安、どこに何があるかわからない不安と混乱の中で、触れ合うこと、隣に座り同じ時間を過ごすことを重ねていく中で、少しずつ少しずつ笑顔を見せて下さったり、「ありがとう」と言って下さったり…。マッサージの仕事をされていた静子さんは、職員や他の入居者の方へマッサージをして下さることもあります。職員の肩を揉んで「あんた、男みたいに肩が太いなー」と大笑いされたり会話も弾みます。

訪問診療を引き受けて下さった医師にも恵まれ、静子さんが静子さんらしく毎日を過ごせるようこれからも職員一丸となって、支援を続けたいと思います。

